

第24号

松浦武四郎記念館友の会

友の会事務局：松阪市小野江町 383

発行：平成26年1月

松浦武四郎記念館友の会

松浦武四郎記念館内

会員数：122名(平成25年12月末現在)

連絡先：電話 0598-56-6847

(家族会員=8名、個人会員=114名)

Fax 0598-56-7328

発行責任者：飯田 秀



友の会だより

新年のご挨拶

役員 唐津 巳喜夫

(武四郎を読む会 副会長)



新年明けましておめでとうございます。

昨年は伊勢神宮の式年遷宮でありました。

更に、外宮前に完成した「せんぐう館」の影響もあり、全国各地から大勢の参拝客が神宮及びその周辺を訪れ大変にぎわいました。さらに新しく造営された内・外宮への初詣客の人々で年末年始は大変な賑わいをみせました。

この賑わいがいつまでも続きますように祈りたいものです、

今年も「武四郎友の会」は、2月の「武四郎まつり」への参加を始め多くの事業・行事を計画しております。会員の皆さまのご協力と積極的なご参加をお願いします。

さて、武四郎と云えば「北海道」とのイメージが強くあります。たしかに武四郎と北海道は切り離して考えられませんが、明治期の武四郎も忘れることはできません。明治3年に北海道開拓判官としての政府の役人を辞職した後、自力で日本国内の各地を廻り、多くの紀行文を残していますが、そのほとんどは図書館などでも見ることはできません。多くは武四郎記念館に稿本のまま大切に保管されております。

そのひとつひとつを、「武四郎を読む会」の佐藤貞夫先生が毎年一冊ずつ、解説・編集して記念館から出版されております。今年3月には明治17年の「甲申日記」が出版予定されております。これは大変な労力と時間を要する作業であります。

「読む会」のメンバーも、先生を少しでも手助けしたいと努力しておりますが、なかなかその域に達せず、先生の後をついて歩くのがやっとであります。我と思わん方は是非「読む会」に参加をしてこの事業を助けてください。武四郎の筆に直接接しながら、一字一字解説していく楽しい作業です。

これら紀行文は武四郎の「古物鑑賞・蒐集」、「天神信仰(25 霊社への神鏡奉納)」、「大台ヶ原登山開路」など、大変面白い内容となっております。

武四郎記念館には、友の会・読む会・誕生地保存会などの関連団体があり、北海道始め各地に武四郎についての研究や顕彰をしている団体があります。興味のある方は、記念館にお問い合わせください。



今年も宜しく

お願い致します！

以上

26年度のバス研修旅行 予告 (下記内容で実施する予定です。)

実施日：平成26年5月19日(月)、又は(大雨など天候により)26日(月)

研修先：大阪天満宮(武四郎が神鏡を奉納)と大阪歴史博物館(難波宮遺跡が保存)を訪ねる旅

募集時期：4月初めにお知らせ・募集しますので、日を開けておいてください。

松阪偉人顕彰団体協議会の経過報告 一氏郷まつり／ふし縁博イベント一

松阪出身の偉人や武将を学ぶイベントが11月2日～3日にかけて松阪市産業振興センターで開催され、文化財を訪ねたり、顕彰団体の活動に触れたりして古里の魅力が再発見されたと思います。

今回は大台町を含め6つの顕彰団体が初めて一堂に会するイベントとして、県の「美し国おこし・三重」の事業に認定され、開催出来ました。

松浦武四郎記念館友の会としても役員5名が協力し、午前中は歴史探訪を含めたウォーキングを2コースに分かれ、松坂城跡コースと魚町・本町コースを職員やボランティアガイドの方々に案内・説明をして貰い、参加された方々58名は真剣に耳を傾けておられました。我々の友の会役員1名が散策のバックアップ役をし無事に終ることが出来ました。

午後は3階に於いて、プレゼンテーションが開催され、各団体の活動内容について松浦武四郎記念館友の会の飯田会長が最初に発表後、各団体代表が順次発表。その後、パネルディスカッションでは各団体の代表がステージにて、コーディネーター(高島会長)の基に会場からの意見をお聞きして、その質問された方が納得のいく回答がありました。

出席者80名が真剣に耳を傾け、今後の活動について活発な意見や提案などがあり、座談会方式が良かったのか今後もこのようなイベント開催への要望がありました。

1階パネル展示では2日間に亘り、各団体の活動や偉人・文化財などのパネル写真やチラシ及び関係資料の展示、書籍の販売。友の会としては、主な活動についての写真や武四郎の肖像・年表のパネル展示、机上では友の会に関する新聞記事・エゾヤマ桜の記事や写真・設立以降の友の会誌のファイルや友の会が作成した「来応和尚と真覚寺」の冊子を置き、見学に来られた方々に案内説明を行いました。

又、松浦武四郎記念館に現在展示されている「武四郎と和歌」のチラシを配置するなどPRを行いました。

今回のイベントは松阪市内始め近隣の方々に向けて、武四郎を知ってもらう良い機会になったと思います。興味を持った方が、武四郎講座や記念館にお越し頂けることに期待しております。

友の会主催の武四郎講座を2ヶ月連続で開催！

10月13日(日)は講師に公益財団法人原田積善会の世古潤壹良理事を迎えて、「原田二郎と積善会」を演題にお話を伺いました。原田二郎について生い立ちや人となりや社会福祉への貢献について詳しくお聞きし、理解が深まりました。

原田二郎は1849年(嘉永2年)に松阪市で生まれ、1875年に大蔵省に入り、第七十四銀行(現横浜銀行)の頭取になり、1900年には鴻池銀行の頭取に就任し、再建に尽力され、更に、大正9年(1920年)7月には全資産(1020万円)を拠出して原田積善会を設立し、日本全国の福祉・公益団体に多額の寄付や助成事業を行いました。尚、生家は松阪市殿町にあり、一般に開放されています。

11月10日(日)は講師に福永昭氏(友の会会員・武四郎を読む会会長)を迎えて、「富士信仰と武四郎」を演題に講座を開催しました。武四郎と富士山との関わり、又、東海道を通るたびに富士山を見たことや、交流のあった人物など、独自に調査された内容で興味深い講座になりました。昨年には、富士山及び周辺の関連地域がユネスコの世界文化遺産に登録されたこともあり、参加された方々も関心の高いテーマでした。



第八十五回武四郎講座 松浦武四郎記念館友の会主催
演題「富士信仰と武四郎」
講師 福永昭氏
(武四郎を読む会) 会長

北海道最北端地域と天塩川流域へ、松浦武四郎の足跡を訪ねる旅実施

第23号でお知らせしましたように10月7日(月)から3泊4日で、「松浦武四郎生誕200年への会」主催による旅行が28名の参加で実施されました。

行程は友の会だより23号のとおりで、天候も良く参加された方の満足度は上々でした。天塩川流域の市町村の方々の温かいもてなしをうけ、更なる交流が進み、再会を誓いあいました。

また、北海道における武四郎に関する銅像や碑の多さと、現地の方々の武四郎への篤い思いが私たちに伝わり、参加者からは松阪市内や三重県内でも武四郎の認知度が高まる活動をする必要があるなどの意見も聞かれました。

参加された方の中から、2名の方に感想文をいただきました。



最北端の地で、全員記念写真

「松浦武四郎の足跡を訪ねる旅」

～北海道最北端地域と天塩川流域へ～

会員：中村文恵

「北海道最北端地域と天塩川流域へ松浦武四郎の足跡を訪ねる旅」(10/7～10)に参加しました。3回目になる今回の旅も素晴らしいものでした。

一日目は二つの海浴いに建つ武四郎像を見学、二日目は天塩川支流を大きな鮭が浅い石ころだらけの川を身体をくねらせて遡上する様に思わず歓声を上げ、三日目は「北海道命名之地」の碑を、最終日は名寄市北国博物館を見学しました。毎日見所満載で感動することいっぱいでした。

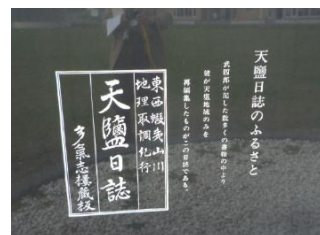
二日目の中川町、三日目の美深町の宿泊地で地元の方々と懇親会で盛り上がりました。天塩川浴いの町が協力し合い「武四郎」をキーワードの一つにして自然豊かな北の大地をPRしていました。

「武四郎の足跡を訪ねる旅」は地元の方々との交流、「武四郎」に対する篤い想いを同う普通の旅では味わえない楽しい旅でした。武四郎の誕生地の松阪市でもっと多くの方に武四郎を知っていただき顕彰碑を建てられると良いと思います。

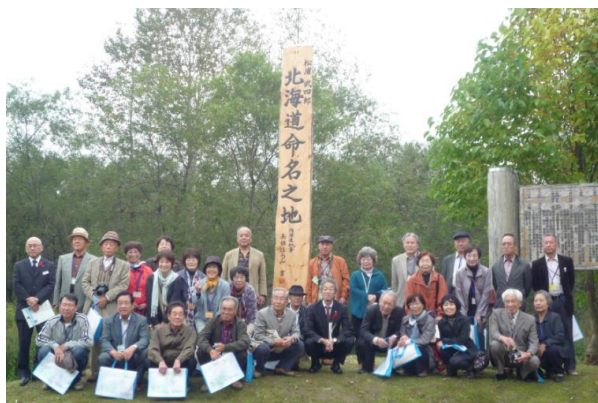
この旅を企画していただいた高瀬さんご夫妻のご努力に感謝します。



天塩川河口・鏡沼海浜公園



碑の裏面



北海道命名之地の碑の前で集合



ノシャップ岬

「武四郎の足跡を訪ねる旅」に参加して

一般：専田啓子

10月7日～10日の三泊四日で、「松浦武四郎生誕200年への会」が中心となり、総勢28名で、北海道の最北端稚内から始まり、天塩川流域を訪ねて来ました。

【注：平成30年には、武四郎が生まれて200年になります。】

北海道の名付け親で、旧三雲の小野江に生まれた人だと云う、わずかな知識しか持たなかったのが、今回この地を訪問できた事は幸せでした。

「武四郎」と云う人に行く先々で学び、感じ、その土地の川や山、広がる牧草地など広大な景色を見てきました。

天塩川流域に在る、中川町・音威子府村・美深町・名寄市は、「武四郎」さんゆかりの地で、宿営標識や北海道命名之地であったり、銅像や歌碑が建っていたりと、その昔に思いを馳せながら見学をして来ました。

今は、北海道まで、飛行機やバスを乗り継いで2000キロの行程を簡単に行くことができますが、約170年前に「武四郎」は6回も北海道に踏査に行かれています。大変な旅だったと、ひしひしと感じ、「武四郎さん」と“さん”を付けて呼ばせてもらいます。

そして、この旅のスロガンである一に楽しい旅、二に楽しい旅、三、四がなくて五に楽しい旅、「何がなんでも楽しい旅」を、一緒に参加した方々と充分、楽しませて頂き、有難うございました。

思い出に残る本当に良い旅でした。



稚内駅にて



「北海道命名之地」を訪れた参加者

【音威子府、美深】幕末の探検家松浦武四郎（1818～88年）の足跡訪問を続けている三重県松阪市の「松浦武四郎生誕200年への会」の会員が9日、音威子府村と美深町の史跡を訪れた。武四郎が北海道の名を思いついた場所とされる「北海道命名之地」などに足を運び、探査の歩みをとどめた。

（下山竜兵）

武四郎の足跡たどる

故郷・松阪市の記念館長ら28人

伊勢国深川村（現松阪市）生まれの武四郎は、57年に丸木舟で天塩川探査を行い「天塩日誌」を執筆。北海道の名称の起源とされる「北加伊道」の名を明治政府に提案したことで知られる。

（生誕200年への会）の三好孝会長（元三重県議会議員）ら28人は、2011年に建てられた音威子府村歴史地区の北海道命名之地を訪れ、松阪市にある松浦武四郎記念館の高橋英雄名誉館長（75）は「北海道命名之地」を訪れたことがきっかけで、

記念館に建てられる武四郎が宿営したとされる「宿営地」は、美深町にある音威子府村の佐野村長が武四郎を生かした地づくりに関して講演「武四郎生誕200年となる2018年に向け、故郷地区に住民が集うサロンとして使える施設を建設 記念館を見学した」。

一行は7日に道内入りし、小車町と天塩町の天塩川河口にある松浦武四郎記念館を見学した。

記念館に建てられる武四郎が宿営したとされる「宿営地」は、美深町にある音威子府村の佐野村長が武四郎を生かした地づくりに関して講演「武四郎生誕200年となる2018年に向け、故郷地区に住民が集うサロンとして使える施設を建設 記念館を見学した」。

音威子府、美深の碑見学



止宿所(ししゅくしょ)跡
(豊富町稚内内)



宿営の地
(美深町)

10月10日の北海道新聞で、音威子府村の北海道命名之地の日を見学する様子が紹介されました！！

世にも稀なる蝦夷屏風

現在、重要文化財に指定されている松浦武四郎関係資料の中で、ひととき異彩を放っているのが「蝦夷屏風」です。

左隻と右隻の2つに分かれる屏風は、それぞれが縦179.5cm×横372.0cmという大きなものです。

両方の屏風には、表面には手紙が、裏面には北海道の暦(こよみ)や蝦夷地調査において購入した物の領収書などがびっしりと貼り付けられています。

手紙は武四郎に宛てたものがほとんどで大久保利通(おおくぼとしみち)をはじめ幕末から明治維新に活躍した人々の名前を見ることができます。領収書からは、武四郎が北海道の調査を行う中で、必要となった米、酒、煙草(たばこ)、手拭(てぬぐい)などのほかに、帆立貝(ほたてがい)や塩数の子、こうじ、アイヌ民族の衣装等を、各地で購入していたことがわかります。このほかに、日本語名を「栄助(えいすけ)」とした網走(あばしり)に暮らすアイヌ民族の少年による書と考えられる習字もあり、大変貴重です。

武四郎は松阪の実家(今の松浦武四郎誕生地)に、「表には手紙を貼り、裏には北海道に関係する書類を貼った屏風にすれば、珍しい物になるので、ぜひそうするように」と手紙に書いて頼んでおり、武四郎の願いによって作られたことがわかります。

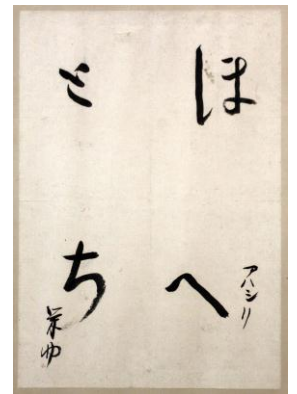
「蝦夷屏風」は傷みが激しいため、今年から2年をかけて修理を行っており、修理後に松浦武四郎記念館で展示しますので、その日を楽しみにしていただきます。



左隻の表面



左隻の裏面



左隻の裏：ほへとち
アハシリ 栄助書

【松浦武四郎記念館よりのお知らせ】

武四郎講座のご案内 ※下記は予定ですので、変更になる場合があります

- | | | |
|--------------|-----------------------|-------------|
| 2月9日(日)10時～ | テーマ：蝦夷屏風の保存修理 | 講師：坂田墨珠堂 |
| 3月9日(日)10時～ | テーマ：明治17年の武四郎 甲申日記を読む | 講師：佐藤貞夫先生 |
| 4月13日(日)10時～ | テーマ：松浦武四郎 ―今、北海道で― | 講師：高瀬英雄名誉館長 |

展示のご案内

- ◆テーマ：武四郎をめぐる文人たち ～平成26年2月2日(日)まで
松浦武四郎は詩歌、書画の世界にも通じ、幕末から明治維新に活躍した多くの文人たちと交流しました。武四郎と交流のあった文人から贈られた作品を中心に、文人として活躍した武四郎の姿を紹介します。
- ◆テーマ：武四郎をめぐる志士たち 平成26年2月4日(火)～4月6日(日)まで
松浦武四郎は、ペリー来航など、相次ぐ諸外国の来航の中で、尊王攘夷の思想を抱く志士や幕臣など、幕末に活躍した多くの人物と交流しました。この展示では、志士たちに向けて出版活動を行い、自らも志士として生きた武四郎の姿を紹介します。

ふるさと川俣いも祭り・大谷嘉兵衛翁まつりに初参加！！

松阪偉人褒彰団体協議会の会員団体である飯高町の「茶王大谷嘉兵衛翁の会」が参加しているまつりが11月23日(祝)に開催され、松浦武四郎記念館友の会の役員4名がアイヌ民族衣装を着て仮装行列に参加しました。

当日は天候にも恵まれて800名の参加者でにぎあう中を、川俣小学校周辺を行列した後、校内で式典が行われ、その中で友の会は初参加と云うことで、挨拶の機会を得、その中でアイヌと武四郎についての話をさせて貰い、武四郎の発信に繋がったことは目的であるネットワーク作りの第一歩になると思います。会場では温かい芋汁のふるまいや僧侶と太鼓の演奏など特色のある祭でした。



【友の会よりのお知らせ】

友の会懇談会が開催されました！！

今年は12月8日に開催され、20名の方が参加され活発な意見、多くの提案がなされました。役員会で検討し友の会の事業計画に反映していきたいと思えます。

☆ 武四郎に関する研修旅行

⇒今年の候補は、大阪天満宮、大阪歴史博物館、京都方面で、日帰りできるところ

⇒市政バスを使った市内の施設研修は継続……又、市外へも行きたい

☆ 武四郎講座

⇒講座開始時刻は、現在の10時は参加しやすい

⇒今まで武四郎講座で出てきた人物の子孫がどうなっているのか知りたい。

☆ 友の会の活動

⇒小学校で松浦武四郎を(特に旧市内)……副読本が出来る。会員が講師となって紙芝居や語り部を

⇒記念館への社会見学を勧めては

⇒松阪偉人顕彰団体協議会の団体との交流やイベントで、武四郎のPRを

⇒イベントでたけちゃんのユルキャラを利用、輪おどりなども

⇒武四郎の和歌を詩吟で……披露



☆ 全般

⇒総会は、講座終了後では無く別の日が良いのでは

⇒「友の会だより」は年3回の発行でも良い

⇒記念館から外へ出て、会員懇親会を計画して欲しい。

⇒会費は上げて良いという意見があるが、赤字にならないのであれば、現状のままで……

⇒北海道では武四郎を大河ドラマに期待する声が高まっている



石水博物館(津市垂水 3032 番地 18)で武四郎に関する企画展示が開催されます。

開催期間：2月7日(金)～4月6日(日)

テーマ：松浦武四郎と川喜田石水 ——幕末知識人のネットワーク——

探検家で「北海道」の名付け親として知られる松浦武四郎は少年時代からの友人で、遠く離れていても晩年まで続いた二人の交流と、周辺の動きを紹介します。(石水博物館のHPより)

川喜田石水(1822-1879)は第14代川喜田久太夫(久太夫政明)で、孫である

川喜田半泥子(1878-1963)は第16代川喜田久太夫(久太夫政令)です。石水は武四郎より4才年下で、若い頃

から交流があり、武四郎が江戸から実家に送った手紙や書籍などは、江戸に店を構えていた川喜田の定期便に便乗して届けられるなど、武四郎の良き理解者であり、親友でもありました。石水博物館には、武四郎との交流を示す資料が多数残されています。

なお、石水の妻は、松阪の射和で活躍した商人で、蔵書家の竹川竹斎の妹「まさ」で、半泥子の育ての親でした。



熊図扇面 松浦武四郎筆

明治5年(1872)石水博物館